

令和7年度 3学年

==選択科目==

教科	国語	科目	国語教養	単位数	2	学年	3	学科	品質管理流通科
使用教科書				副教材	パーフェクト演習(尚文出版)			対応資格	

1 目標

実社会や上級学校に向けての必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を育てる。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
主体的、対話的で深い学びを通して国語の知識や技能を身につけ、論理的に考える力、言葉で伝え合う力を身に付けるようにする。	論理的に「書くこと」と「読むこと」によって論理力を鍛える。特に「読むこと」に思考力、判断力を養う。	「話す・聞く」「書く」「読む」力を身につけ、言葉の大切さを意識し、主体的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
言葉を通して他者や社会に関わる態度を養い、国語の知識や技能を身に付けている。	論理力を鍛え、書くこと、読むことによって、思考力や判断力を身に付けている。	書く力、読む力を身につけ、言葉の大切さを意識し、主体的に取り組もうとしている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1章 基礎 ・漢字の読み、書き取り ・同音異字、同訓異字 ・文学史 ・評論・随想・小説の文章問題	国語の基礎的な知識や技術を理解している。	「読むこと」において文章の内容や構成、論理の展開を的確に捉え要点や要旨を把握しようとしている。	これまでに学んだことを中心とした総合問題に積極的に取り組もうとしている。
第2章 発展 ・難読語 ・反対語 ・ことわざ ・評論・随想・小説の文章問題	難読語・反対語・ことわざを正しく理解している。	「読むこと」において文章の内容や構成、論理の展開を的確に捉え要点や要旨を把握しようとしている。	国語における一般常識問題やSPI対策問題に積極的に取り組もうとしている。
第3章 実践 ・四字熟語 ・慣用句 ・SPI ・評論・随想・小説の文章問題	四字熟語・慣用句を正しく理解している	「読むこと」において文章の内容や構成、論理の展開を的確に捉え要点や要旨を把握しようとしている。	実際の就職試験や入学試験を中心とした問題に積極的に取り組もうとしている。

第4章 表現 ・表記の基礎、基本 ・原稿用紙の使い方、書き方の基本	表記や原稿用紙について正しい使い方を理解している。	自分の考えや事柄が適切に伝わるように、文章の種類や語句などの表現を工夫している。	言葉を正しく使い分け、意欲を持ち、言葉を意識して自らの言語生活を豊かに取り組もうとしている。
第5章 実用 ・敬語の使い方 ・手紙文や封筒の書き方 ・電話の対応など	場面や目的に応じた適切な言葉、敬語、正しい使い方を理解している。試験や実生活で役立つ実用的な知識を理解している。	自分の考えや事柄が適切に伝わるように、文章の種類や語句などの表現を工夫している。	言葉を正しく使い分け、意欲を持ち、言葉を意識して自らの言語生活を豊かに取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。（仮評価）また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末（年度末）には、累計した観点別の総括（評価）を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

教室では座学と、クロームブックを使用しての調べ学習を取り入れて主体的に学ぶ態度を培う。時間厳守、正しい服装・態度で参加し、ワークブックやクロームブックなどの忘れ物の無いよう注意すること。

教科	数学	科目	数学応用	単位数	2	学年	3	学科	品質管理流通科
使用教科書			副教材			対応資格		なし	

1 目標

数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

(1) 知識及び技能	(2) 思考力、判断力、表現力等	(3) 学びに向かう力、人間性等
式と証明、図形と方程式、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身につけようとする力を養う。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式や高次方程式、不等式の表す領域について論理的に考察する力が身につけている。また離散的な変化の規則性に着目し、問題を解決したり事象を数学的に表現し考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする主体的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
式と証明、図形と方程式、数列についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活との関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能が身につけている。	数の範囲や式の性質に着目し、等式や不等式や高次方程式、不等式の表す領域について論理的に考察する力が身につけている。また離散的な変化の規則性に着目し、問題を解決したり事象を数学的に表現し考察する力が身につけている。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする主体的に取り組む態度が身につけている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1 式と証明 (1) 式と計算 1. 整式の乗法・因数分解 2. 整式の除法 3. 分数式とその計算 (2) 等式・不等式の証明(8) 1. 恒等式	○3 次式の展開の公式を利用できる。 ○3 次式の因数分解の公式を利用できる。 ○多項式の割り算の計算方法を理解している。 ○分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。 ○分数式の約分、四則計算ができる。 ○恒等式の性質を理解し、恒等式となるように係数を決定することができる。	○多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 ○多項式の割り算の結果を等式で表して考察することができる。 ○分数式の計算の結果を、既約分数式または多項式として表現することができる。 ○1 文字の恒等式の知識をもとに、2 つ以上の文字に関する恒等式について考察す	○2 種類の文字を含む多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ○多項式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。 ○いろいろな分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。 ○恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察し

<p>2. 等式の証明</p> <p>3. 不等式の証明</p>	<p>○分数式の恒等式について、分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。</p> <p>○$A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。</p> <p>○比例式を $=k$ とおいて処理することができる。</p> <p>○実数の大小関係や実数の平方の性質を利用して、不等式や</p> <p>$a>b, c>d \Rightarrow a+c>b+d$</p> <p>などを証明することができる。</p> <p>○正の数の場合、平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p> <p>○絶対値の性質を利用して、絶対値記号を含む不等式を証明することができる。</p> <p>○相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。</p>	<p>ることができる。</p> <p>○与えられた条件式の利用方法を考察することができる。適した方法を用いることによって等式を証明することができる。</p> <p>○不等式 $A > B$ を証明するには $A-B > 0$ を示せばよいと考察することができる。そのことを用いて不等式を証明することができる。</p> <p>○不等式の証明で、等号が成り立つ場合について考察できる。</p> <p>○不等式の証明に実数の平方の性質を利用できるように、式変形を考察することができる。</p>	<p>ようとする。</p> <p>○等式の証明を通して、数学の論証に興味・関心をもつ。</p> <p>○不等式の証明を通して、数学の論証に興味・関心をもつ。</p> <p>○相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に、興味・関心をもつ。</p>
<p>2 複素数と方程式</p> <p>(1) 複素数と方程式の解</p> <p>1. 複素数とその演算</p> <p>2. 2 次方程式の解</p> <p>3. 解と係数の関係</p>	<p>○複素数の表記を理解し、複素数、複素数の相等の定義を理解している。</p> <p>○複素数の四則計算ができる。</p> <p>○負の数の平方根を理解し、それらを含む式の計算を、i を用いて処理することができる。</p> <p>○2 次方程式の解の公式を利用して、2 次方程式を解くことができる。</p> <p>○解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程</p>	<p>○有理数から実数へ数の範囲を拡張する必要性を理解し、複素数を考察することができる。</p> <p>○複素数の範囲で、負の数の平方根を考察することができる。</p> <p>○2 次方程式の解について、実際に解を求めずに、判別式で解の種類を判別することができることを理解している。</p> <p>○やや複雑な 2 数を解とする 2 次方程式がどのような</p>	<p>○方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。</p> <p>○2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。</p> <p>○2 次方程式の解に関する種々の問題を、解と係数の</p>

	<p>式の係数を求めることができる。</p> <p>○対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。</p> <p>○2次方程式の解を利用して、2次式を因数分解できる。○和と積が与えられた2数を、2次方程式を解くことにより求めることができる。</p>	<p>ものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。</p> <p>○異なる2つの実数α、βが正の数、負の数、異符号であることを、同値な式で表現できる。○2次方程式の解の符号に関する問題を、解と係数の関係を利用して考察することができる。</p>	<p>関係を利用して考察しようとする。○2次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。</p>
<p>(2) 高次方程式</p> <p>1. 剰余の定理・因数定理</p>	<p>○剰余の定理を利用して、多項式を1次式で割ったときの余りを求めることができる。</p> <p>○剰余の定理を利用して、多項式を1次式や2次式で割ったときの余りを求めることができる。</p> <p>○$P(k)=0$であるkの値の求め方を理解し、高次式を因数分解できる。</p>	<p>○多項式$P(x)$が$x-k$で割り切れることを式で表現することができる。</p>	<p>○多項式を1次式で割る計算に、組立除法を積極的に利用する。</p>
<p>2. 高次方程式</p>	<p>○因数分解や因数定理を利用することにより、高次方程式を解くことができる</p> <p>○高次方程式の既知の解から、方程式の係数を決定することができる。○高次方程式の虚数解から、方程式の係数を決定することができる。</p>	<p>○高次方程式を、1次・2次方程式に帰着して考察することができる。</p> <p>○高次方程式が解αをもつことを、式で表現することができる。○「方程式が虚数αを解にもてば$\bar{\alpha}$も解である」ことの証明に、共役な複素数の性質がどのように使われるかを考察することができる。</p>	<p>○1の3乗根の性質に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p> <p>○方程式が虚数αを解にもてば$\bar{\alpha}$も解であることに興味・関心をもつ。</p> <p>○3次方程式の解と係数に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p>
<p>3 図形と方程式</p> <p>(1) 平面上の点の座標と直線の方程式</p> <p>1. 平面上の点の座標</p>	<p>○座標平面上において、2点間の距離が求められる。</p> <p>○距離の公式を利用して、図形の性質を証明できる。</p> <p>○座標平面上において、線分の内分点、外分点の座標が求められる。</p> <p>○三角形の重心の座標の公</p>	<p>○図形の性質を証明する際に、座標軸を適切に設定することで、計算が簡単になるように工夫をすることができる。</p> <p>○点の座標を求めるのに利用できる適切な図形の性質を判断でき、図形的条件(点</p>	<p>○数直線上の点に関する公式を利用して、平面上の問題を考察しようとする。</p> <p>○図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法の下さを知ろうとする。</p>

<p>2. 直線の方程式</p>	<p>式を理解している。</p> <p>○直線が x, y の 1 次方程式で表されることを理解している。</p> <p>○x 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形で表せないことを理解している。</p> <p>○与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。</p>	<p>対称、線対称など) を式で表現することができる。</p> <p>○1 点を通る直線の方程式から、異なる 2 点を通る直線の方程式に拡張して考察することができる。</p>	<p>○公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。</p>
<p>(2) 不等式の表す領域と線形計画法</p> <p>1. 不等式の表す領域</p> <p>2. 線形計画法</p>	<p>○不等式や連立不等式の表す領域を図示することができる。</p> <p>○図で与えられた領域を不等式で表すことができる。</p> <p>○領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。○領域を利用して、命題を証明することができる。</p> <p>○領域を利用する 1 次式の最大値・最小値の求め方を理解している。</p>	<p>○変数 x, y についての不等式を満たす点 (x, y) 全体の集合がどのような図形であるかを考察することができる。○条件の真理集合を考えることにより、命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。</p> <p>○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。</p> <p>○項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。</p> <p>○等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。</p>	<p>○線形計画法では、条件として与えられた不等式の表す領域を図示することにより、鮮やかに最大値・最小値を求めることができることに興味・関心をもつ。</p> <p>○不等式を含む命題を、不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。○放物線を境界線とする領域に関心を持ち、考察しようとする。</p> <p>○線形計画法について、最大値・最小値を求める 1 次式の係数を変えたり、最大・最小となる点から係数を求めたりすることで、より詳しく考察し、理解しようとする。</p>
<p>3 数列</p> <p>(1) 等差数列と等比数列</p> <p>1. 等差数列とその和</p> <p>2. 等比数列とその和</p>	<p>○等差数列の公差、一般項などを理解している。また、条件から等差数列の一般項を決定できる。</p> <p>○等差数列の和の公式を適切に利用して、等差数列の和が求められる。</p> <p>○等比数列の公比、一般項などを理解している。また、条件から等比数列の一般項を決定できる。</p> <p>○等比数列の和の公式を適切に利用して、等比数列の</p>	<p>○等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。</p> <p>○項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。</p> <p>○等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係やその和について考察できる。</p>	<p>○等差中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。</p> <p>○等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。</p> <p>○複利計算に興味、関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。</p>

<p>(2)いろいろな数列</p> <p>1. 自然数の2乗の和</p> <p>2. 和の記号Σとその性質</p>	<p>和が求められる。</p> <p>○等比数列の和に関する条件から、初項や公比が求められる。</p> <p>○自然数の累乗の和を求めることができる。</p> <p>○和の記号Σの意味を理解し、数列の和が求められる。</p>	<p>○Σの性質を利用して、和の計算を簡単に行うことができる。</p>	<p>○自然数の2乗の和や3乗の和の公式を導こうとする意欲がある。</p>
---	--	---	---------------------------------------

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。(仮評価) また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
小テスト	○		○
自学課題	○		○
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

数学は、数学的見方・考え方を身に付けることにより事象を論理的に考察する力、表現する力を養う教科です。座学が中心となりますが、普段の授業を大切にして問題意識を持って積極的に授業に参加し、課題や提出物にもしっかり取り組んでください。

教科	理科	科目	化学	単位数	4 (2,3年各2)	学年	2, 3	学科	品質管理流通科
使用教科書	化学(実教出版)			副教材	なし			対応資格	なし

1 目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

3 【指導項目】ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1章 物質の状態と平衡 1 状態変化 2 固体の構造 3 気体の性質 4 溶液	物質の状態と平衡についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、科学的に考察し、表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
2章 物質の変化と平衡 1 化学反応と熱・光エネルギー 2 電池と電気分解 3 反応の速さとしくみ 4 化学平衡	化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	物質の変化と平衡について、観察、実験を通して探究し、化学反応とエネルギー、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
3章 無機物質 1 周期表 2 非金属元素 3 金属元素	無機物質の性質についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	無機物質について、観察、実験を通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4章 有機化合物 1 有機化合物の特徴と分類 2 脂肪族炭化水素 3 酸素を含む脂肪族化合物 4 芳香族化合物 5章 高分子化合物 1 高分子化合物 2 天然高分子化合物 3 合成高分子化合物	有機化合物、高分子化合物の性質についての知識を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能が身に付いている。	有機化合物、高分子化合物について、観察・実験などを通して探究し、有機化合物、高分子化合物物質の性質における規則性や関係性を見いだして表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。
終章 化学が築く未来	化学が果たす役割を日常生活や社会と関連付けながら、その知識を理解している。	人間生活の中の化学について、これからの社会における化学が果たす役割を科学的に考察し、表現することができる。	化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについてABCする。(評価基準は単元ごとに設定)

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括をABCで行う。(仮評価)また、2、3学期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。3学期末(年度末)には、累計した観点別の総括(評価)を1・2・3・4・5の5段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

授業は必ずノート等に授業内容を記入し、提出物は期限を守ってください。教科担任の指示にしたがい、しっかり学習すること。忘れ物も無いように注意すること。

教科	水産	科目	管理実務	単位数	2	学年	3	学科	品質管理流通科
使用教科書		副教材	ビジネス実践			対応資格		全商ビジネス計算実務 検定3級	

1 目標

水産食品産業の実務に必要な知識と技術を習得させ、実務の基本姿勢を理解させるとともに水産食品産業の各分野で応用できる能力と態度を育てる。

(1)知識及び技能	(2)思考力、判断力、表現力等	(3)学びに向かう力、人間性等
ビジネス計算実務の応用と簿記の基本について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付ける。	ビジネス計算実務の応用と簿記の基本に関する課題を発見し、食品関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を養う。	ビジネス計算実務の応用と簿記の基本について特質を理解し、関連産業の各分野で利用できるよう自ら学び、水産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

2 評価の観点及びその趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ビジネス計算実務の応用と簿記の基本について体系的・系統的に理解し、関連する技術を身に付けている。	ビジネス計算実務の応用と簿記の基本に関する課題を発見し、食品関連産業に携わるものとして合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。	ビジネス計算実務の応用と簿記の基本について特質を理解し、関連産業の各分野で利用できるよう自ら学び、水産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けている。

3 〔指導項目〕ごとの評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
全商ビジネス計算実務検定2級 1 見取算 2 乗算 3 除算 4 ビジネス計算	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法について理解している。	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法を解決しようとしている。	ビジネス計算実務検定を取得する上で必要となる計算方法を自ら学び様々な課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
全商簿記検定3級 1 見取算 2 乗算 3 除算 4 ビジネス計算	簿記検定検定を取得する上で必要となる計算方法について理解している。	簿記検定を取得する上で必要となる計算方法を解決しようとしている。	簿記検定を取得する上で必要となる計算方法を自ら学び様々な課題解決に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

4 観点別学習状況の評価について

各単元において、【知識・技能】【思考・判断・表現】【主体的に学習に取り組む態度】の観点のいずれかもしくはすべてについて abc で評価する。（評価基準は単元ごとに設定）

この結果を数値化することで、学期末に観点別の総括を ABC で行う。（仮評価）また、前・後期末の観点別の総括は、累計した観点別の総括とする。年度末には、累計した観点別の総括（評価）を 1・2・3・4・5 の 5 段階の評定に総括し、この科目の成績とする。

なお、本科目では以下の方法で各観点の評価を行う。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
定期考査	○	○	
観察・実験	○		○
小テスト	○		
発表・話し合い		○	
ノート・レポート		○	○
作品制作		○	
発言・行動観察			○
自己評価・相互評価			○

5 担当教員から

学習内容の着実な定着が望まれるので、家庭学習で技能の向上に努め、しっかりと意欲的に参加し、教科書・ノート等の忘れ物の無いよう注意すること。